

令和5年度 徳島市富田中学校 総括評価表

自 己 評 価			学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	学校関係者の意見	
学力向上 生きる力 課題解決 能力の育成	生徒一人ひとりが「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業実践をめざす。	評価指標 ○「教科書」「ノート」「めあて」などの表示を利用している。 ○授業の流れを明示し進捗を確認している。 ○授業の終わりに本時の振り返りの時間をとっている。 ○チョークの色に気を配っている。	評価指標の達成度 A 51.0% B 46.0% C 3.0%	総合評定 (評定) <b style="font-size: 2em;">A (所見) 全ての生徒が分かりやすい授業作りを推進するために、多くの職員研修に取り組み、教職員の意識が高まった。 タブレットを日々持ち帰ることで、新しい形の家庭学習を実現できた。また、授業においても指導方法の幅が広がり、子どもの興味・関心を高めることにつながっている。 教員の指導スキルの向上はもちろん、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の指導と評価に関する研究を継続して進めていく必要がある。
		○ホワイトボードの活用を取り入れるなど、級友の意見交換や先哲者の考え等を取り入れ、「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業を行っている。 ○定期テスト等で、記述式の設問を多く取り入れている。 ○総合的な学習の時間での学習発表会や人権意見発表会などの表現の場を工夫している。 ○見方・考え方を働かせた学習指導の充実を図り、何ができるようになるかを意識した指導と評価に取り組んでいる。	A 32.0% B 57.0% C 11.0%	
		○デジタル教科書などの視覚教材を活用している。 ○タブレット等のICT機器を活用し、パワーポイント等で自作教材を活用している。 ○インターネットを利用した調べ学習などに取り組んでいる。	A 35.0% B 57.0% C 8.0%	
		活動計画 ①どの生徒にも授業の流れがわかりやすく振り返りがしやすいため、ユニバーサルデザインを意識した授業を実践する。 ②ホワイトボードミーティング®を取り入れ、自由な発想や多様な考え・意見を出し合い、課題を解決しようとする力や自他の思いや考えをまとめ、書いたり表現したりする場を設けている。 ③タブレット等のICT機器を効果的に活用するなど、生徒の学習への興味関心を高め、集中力の持続につながる授業を実践する。	活動計画の実施状況 先生はわかりやすい授業になるよう工夫しているという生徒の声は90%以上で、学校の授業を理解している生徒は85%であった。 ホワイトボードミーティング®やグループ学習、卒業プロジェクト等自分の意見を発表する取組を実施し言語活動の充実を図った。 GIGAスクール構想を積極的に推進し、ICT機器を他のツールと有機的に繋げて効果的に活用した。	
生徒指導 の充実	生徒理解に努め、生徒一人一人に応じた指導の充実を	評価指標 ○人権獲得の歴史や、個人人権課題について正しく理解できるように指導している。 ○日常の学校生活の中で、人権を尊重する態度を身につけさせている。 ○コミュニケーション能力や、表現力の育成に取り組んでいる。	評価指標の達成度 A 35.0% B 65.0% C 0.0%	総合評定 (評定) <b style="font-size: 2em;">B (所見) ちゃんせいこ先生を講師にハワイ
		○ケース会議を開いたり（参加したり）、個別の指導計画や指導記録などを作成したりして、情報の共有化を図っている。	A 14.0% B 65.0% C 21.0%	
			◇分かりやすい授業作りに学校全体で努力し工夫されている。 ◇様々な種類の教育機器を生徒の実態に応じきる教員となれるよう、定期的な研修を計画してほしい。 ◇学力向上に向けて、保護者と連携しておこなえるような取組を実践してほしい。 ◇基礎学力の定着が図られていない生徒への対策を学校をあげて、取り組んでほしい。 ◇タブレットの持ち帰りに関して、定着しているようで安心した。	◇生徒アンケートの回答から、調べたことを全体に発表したり、対話の中で課題を解決したりする学習を取り組みたい等、まさに「主体的・対話的な深い学び」を願う声があった。生徒が主体となった授業のあり方を模索し、実践していかねばならない。 ◇生徒の特性を来年度にしっかりと引き継ぎ、それぞれの生徒の能力・適性に応じた授業作りを、学力向上推進担当を中心に子ども目線で検討していく。 ◇基本的生活習慣の定着を図り、前向きな態度で授業作りに取り組んでいけるよう、生徒指導主事や養護教諭と連携を図り、ポジティブな行動支援を図りながら、保護者には様々な角度から協力を依頼していく。 ◇生徒にとって「分かりやすい」授業を実現するために、教員のスキルアップにつながる研修を年間を通して計画的に取り組んでいく。
			◇学校が目標としている「WITH」の精神が生徒の中にも浸透し、教職員と生徒がふれあう機会が増え、相互理解が図られている。	◇教職員が学校生活の様々な場面で知り得た生徒の情報を、生徒に関わる全ての教職員にできるだけ速く伝達することができ組織作りを、生徒指導主事を中心に整備していく。 ◇全ての教職員が「WITH」の精神をもって教育活動が送れるよう、生

<p>特別支援教育の充実</p>	<p>図るとともに、特別な支援を必要とする生徒に、きめ細かい指導体制を構築する。</p>	<p>○休み時間や昼休み、放課後などを利用し、個に応じた補充学習を行っている。 ○日本語支援などを利用し、個の困難さに応じた指導を行っている。</p> <p>○学んだことをふり振り返りながら、新たな学習や生徒への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行っている。 ○出前授業や講演など体験的な教育活動を効果的に行っている。 ○あらゆる教育活動において、キャリア教育の視点を取り入れた評価・改善を行っている。(キャリアパスポートの利用等)</p>	<p>A 14.0% B 73.0% C 13.0%</p>	<p>トボードミーティング⑧を取り入れた。校訓の精神を生徒それぞれに理解させるとともに、誰もが幸せになるためには考え、意見を交換し、生活の中で実践できるよう学校をあげて取り組むことができた。 全ての学級において、特別支援教育の視点が活かされるよう、本年度は生徒理解に重点を置いて、組織的に取り組むことができた。 学校評価アンケートの結果から、コロナ禍の中でキャリア教育推進のためには、全ての教育活動の中で、更なる工夫が必要である</p>	<p>◇特別支援教育の充実を図ることが大切。支援学級だけでなく、全ての生徒に特別支援教育を実践してほしい。</p>	<p>徒に寄り添う時間を確保し、校務分掌の見直しや行事の精選を図っていく。</p> <p>◇特別支援教育コーディネーターを中心に、目の前の生徒に最適な支援を実践できるよう、教員のスキルアップが図れる研修をしていく。</p>
<p>家庭・地域との連携協働</p>	<p>家庭・地域との連携を図るため、学校の取組を積極的に広報し、保護者や地域の方々の理解と協力のもと、教育活動を実践する。</p>	<p>評価指標</p> <p>○学年・学級の各種通信、メール配信を積極的に活用し、情報発信を行っている。 ○ホームページをこまめに更新している。 ○家庭訪問や電話連絡をこまめに行い、保護者との連携を深めている。</p> <p>○学校教育に関する保護者や地域の方からの理解が進むよう行事を企画・運営している。 ○保護者や地域の方が参加しやすくなる日程で行事を計画している。 ○学校行事の時には、保護者や地域の方と積極的に情報交換を行っている。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>A 32.0% B 60.0% C 8.0%</p> <p>A 24.0% B 65.0% C 10.0%</p>	<p>総合評定</p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>子どものことを大切に考えてくれる地域や保護者の人に対して、学校での様子をホームページや学年便りを年間通して発信することができた。</p>	<p>◇地域との連携を、最大限に工夫してイベントに参加してほしい。</p> <p>◇少子化の中、学年を超えた交流が図れていることが好感がもてた。</p> <p>◇これからも多くの地域行事に参加できるよう、お願いしたい。</p> <p>◇地域連絡協議会も今後も開催をお願いしたい。</p>	<p>◇本年度は、広報活動としてホームページの更新を昨年より増やしたり、ふれあい健康館と連携して、生徒作品を展示し、地域の方にみていただいた。また、各地区の祭りや餅つき大会の参加、PTAの方々による花植え、校区周辺の巡視など地域の方々との交流の機会を持った。幼小中地域の方々との地域連絡協議会においては生徒の実情を理解していただき、子供の見守り体制の協力をいただいた。さらに地域と学校との連携を深め、子どもの成長に積極的に関わっていただけるよう工夫していく。</p>
<p>活動計画</p>	<p>①自分や他者の人権を尊重しながら意見を出し合い、学びを深めながら「解」を創り出す力を身につけ、社会に出てからも差別を解消する実践力を持った生徒の育成に取り組む。</p> <p>②特別支援学級だけにとどまらず、全ての学級の生徒を対象に個々のニーズに対応した特別支援教育を推進する。</p> <p>③体験的な活動を重視し、社会的、職業的な自立に向けて必要な資質・能力を身につけさせるなど生徒一人一人の発達段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育を推進する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>授業だけでなく、活動や集会でホワイトボードを利用し、「ウェルビーイングな学校になるために」について考える機会を増やした。</p> <p>特別支援教育コーディネーターを中心に共通理解を図り専門機関の協力を得ながら推進した。</p> <p>年間指導計画に基づき、学年ごとに、組織的・系統的な取組を実施し、出前授業を実施した。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>学校ホームページの更新を適宜行い情報発信に努めた。</p> <p>案内文書に加えてホームページ掲載やミニコミ誌への配信を実施し、周知・広報を行った。</p>	<p>①学校の情報を積極的に発信し、地域に学校の現状を理解していただき、開かれた学校づくりを行う。</p> <p>②各種学校行事において保護者や地域の方々と協力体制を築けるよう努力する。</p>		

「評定」の基準

A : 十分達成できた

B : おおむね達成できた

C : 達成できなかった